

令和7年3月13日

国土交通省関東地方整備局

関東技術事務所

## 建設技術展示館・第17期展示技術を募集します

### ～建設技術展示館・第17期リニューアルオープンに向け展示技術を募集～

建設技術展示館では第17期リニューアルオープンに向け展示技術を募集します。

第17期の展示技術テーマは第16期から引き続き「防災・減災、国土強靱化、インフラ長寿命化技術」「インフラ分野のDX技術・i-construction2.0技術」「インフラ分野の脱炭素化・GX技術」の3つのテーマを募集します。詳細については建設技術展示館ホームページをご覧ください。たくさんのご応募お待ちしております。

1. 募集期間：令和7年3月14日（金）から令和7年7月18日（金）まで
2. 募集テーマ：下記の3つの技術テーマについて募集します。
  - ・防災・減災、国土強靱化、インフラ長寿命化技術
  - ・インフラ分野のDX技術・i-construction2.0技術
  - ・インフラ分野の脱炭素化・GX技術
3. 応募方法：建設技術展示館ホームページ内、展示技術応募ページよりご応募ください。  
ホームページは「建設技術展示館」で検索いただくか、別紙をご覧ください。
4. 展示場所：関東技術事務所構内『建設技術展示館』（千葉県松戸市五香西6-12-1）
5. 展示期間：リニューアルオープン（令和8年4月）より約3年間
6. その他：建設技術展示館は火曜日から金曜日の10時から16時まで開館しております。  
展示技術応募をご検討の方はぜひご来館ください。
7. 取材について：取材についてはお手数ですが事前にご連絡くださいますようお願いいたします。

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 埼玉県政記者クラブ 横浜海事記者クラブ  
千葉県政記者会 松戸記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 関東技術事務所

電話：047-389-5121（代表） メールアドレス：ktr-tenzi-info@mlit.go.jp

副所長 菅（内線：205）

技術企画・人材育成課 技術情報管理官 角田（内線：303）

DX・i-Construction 

# 建設技術展示館

建設技術展示館は国土交通省唯一の常設技術展示場です。

## 第17期 展示技術募集

**募集締切**

Application Deadline

**R7年7月18日(金)**

防災・減災、国土強靱化、

インフラ長寿命化技術

**募集テーマ**

Application Theme

インフラ分野のDX技術・

i-Construction 2.0技術

インフラ分野の脱炭素化・GX技術

**応募方法**

Application method

建設技術展示館ホームページ  
応募フォームよりご応募ください  
<https://www.kense-te.go.jp/>**展示場所**

Exhibition Area

関東技術事務所 建設技術展示館  
(千葉県松戸市五香西6-12-1)**展示期間**

Exhibition Period

RENEWAL OPEN(R8,4)~約3年間

# 建設技術展示館 紹介資料

---

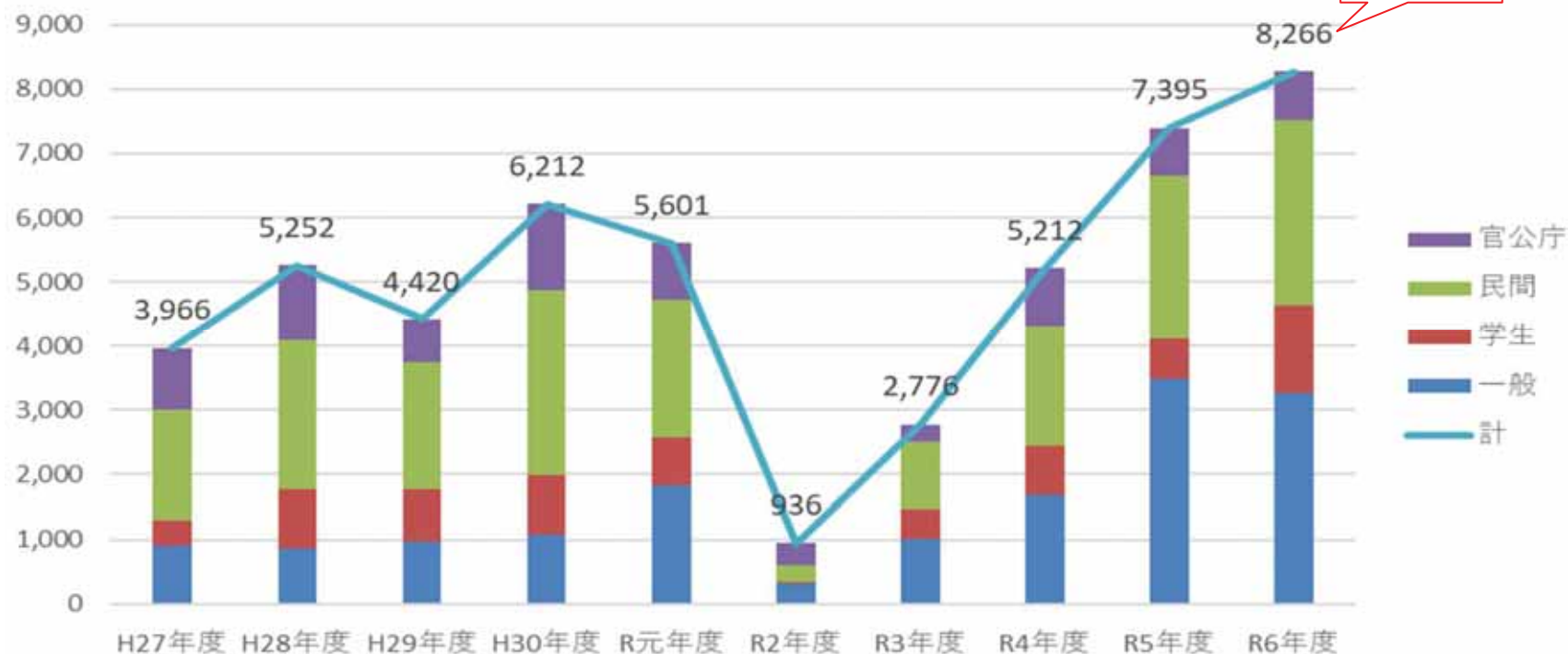
## 1. 建設技術展示館の概要(H11～)

国民の暮らしを支える建設技術を幅広く情報発信するとともに、次世代を担う若い方にも建設技術への関心や理解を深めていただくことを目的に、平成11年度より関東技術事務所構内に開設した常設展示場である。

新しい建設技術や関東地方整備局等の取組をパネルや映像、模型等で分かりやすく展示し、技術者はもとより、学生から一般の方まで幅広い層の方々に、「見て」「触れて」「体験して学べる(知る)」体験型施設として、これまでに約29万人の方々に来館頂いている(令和7年2月末現在)

開設以降、国土交通行政を取り巻く環境の変化や建設技術の進歩等、時代の変化に応じて展示内容の検討や見直しを重ねて、現在は「第16期 建設技術展示館」の展示を実施している(R5.5.31～R7.11.30)

建設技術展示館来場者の推移(直近10年間)



## 2. 第16期の概要と取組

### 1) 技術展示

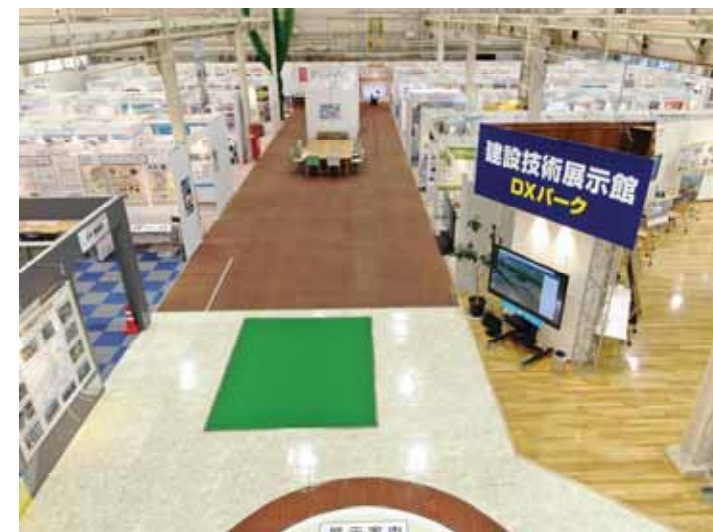
第5期国土交通省技術基本計画(2022-2026)を参考に3つのテーマで技術公募し、学識者による審査を経て選定した技術のほか、関係機関・地方公共団体・大学等の取組や研究も展示している(展示者総数82者)

<b>防災・減災、国土強靱化、インフラ長寿命化技術</b> (43ブース) ■防災・減災対策技術 ■被災後の応急復旧技術 ■補修・メンテナンスの新技术 ■点検・診断やモニタリングの技術 など
<b>インフラ分野のDX技術</b> (29ブース) ■i-Construction技術 (IoTを活用した技術、ドローンや衛星などの三次元測量データを活用した技術、ICT施工技術、BIM/CIMなど三次元設計技術、AR/VR/MRなどを活用した技術) ■無人化・省力化・ロボット技術 ■ビッグデータ等を活用したAIによる技術 など
<b>インフラ分野の脱炭素化・GX技術</b> (5ブース) ■建設機械等の二酸化炭素排出量の削減技術 ■再生可能エネルギーの効果的な活用技術 ■都市緑化に関する技術 など
<b>関係機関・地方公共団体・大学等の取組みや研究</b> (9ブース) ■国土地理院、国土技術総合研究所、(国研)土木研究所、関東地方整備局 ■千葉県、松江市 ■東京大学、早稲田大学、日本大学

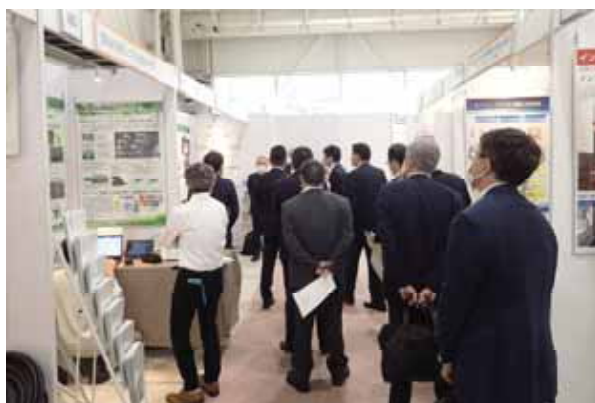
第16期 展示テーマと内容



建設技術展示館フロアマップ



建設技術展示館内状況



展示ブースの見学状況



ブース担当者による技術説明状況①



ブース担当者による技術説明状況②

### 2)DX体験を通じた広報活動(DXパーク)

誰でも楽しくDX技術が学べる体験型コンテンツを用意し、幅広い層の方々に体験頂いている。



DXパーク(建設技術展示館内)



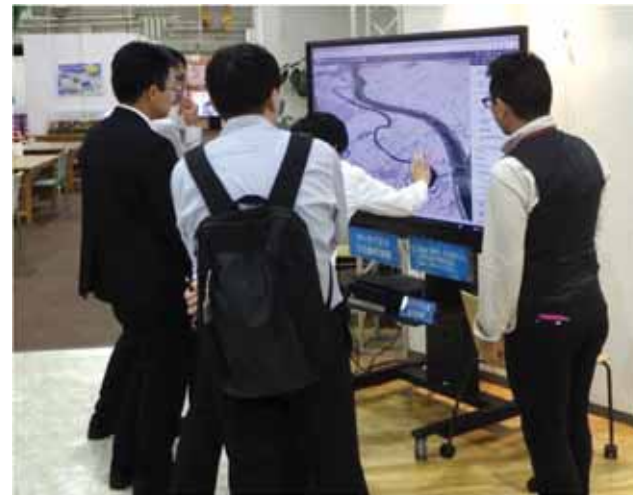
レーザースキャナによる測量体験



3次元測量結果(点群データ)の説明



トータルステーションによる測量体験



3次元データ操作体験



河川管理施設のVR体験

## 建設技術展示館の概要と第16期の活動内容

### ・来館者の方々(代表事例)



民間(建設業 社員研修)



官公庁(職員研修)



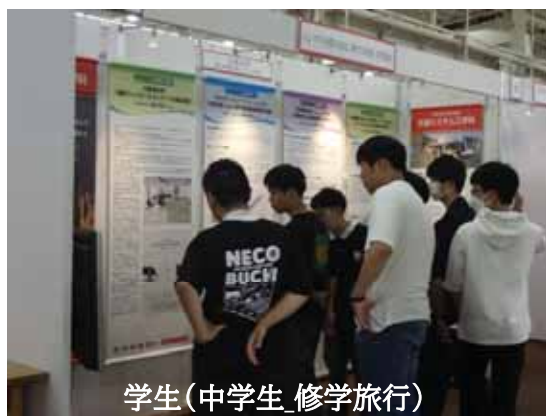
一般(民生委員)



一般(御家族)



学生(小学生)



学生(中学生 修学旅行)



学生(高校生 課外授業)



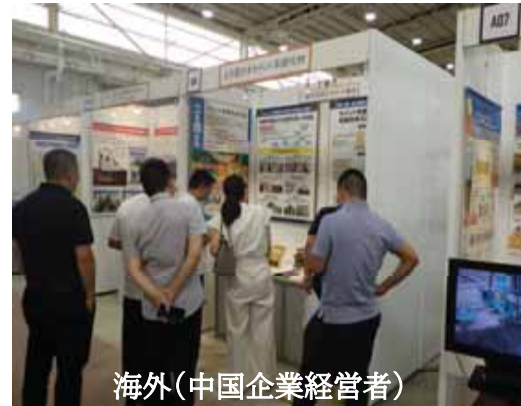
学生(大学生 課外授業)



海外(JICA視察)



海外(中国の大学生)



海外(中国企業経営者)



海外(日本企業の外国籍スタッフ)

## 3) 出展技術発表会(年6回)

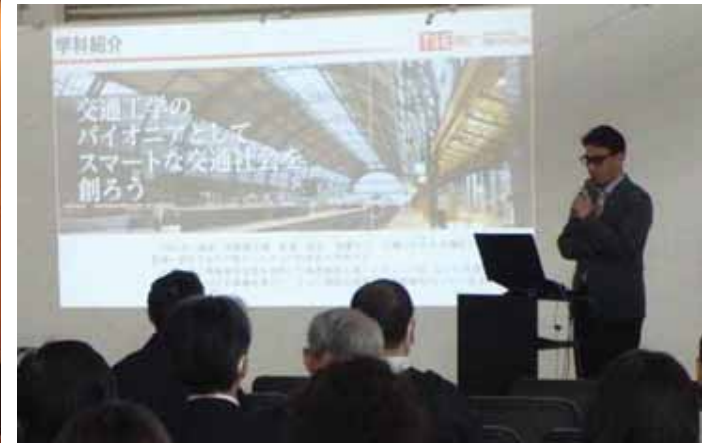
建設技術の活用・普及促進を目的として、建設技術展示館に出展している技術を行政・民間の技術者に向けて出展者が紹介するほか、講演として、関東地方整備局や関係機関の取組、大学連携の研究報告等を実施している。本発表会は、CPD/CPDS継続教育プログラムに認定されている(年間参加者数:約2,000名)



開催チラシ



講演(第5回開催)



講演(第11回開催)



建設技術展示館 DXパーク



さいたま新都心合同庁舎1号館講堂



## 4) 広報活動

WebやSNS等への投稿をはじめ、地元広報誌や業界紙等への寄稿による建設技術展示館の紹介を行っている。



Xへの投稿

**建設技術展示館**  
**夏休み子供体験教室**



同館ホームページ

「土木」や「建設技術」に関する体験教室を開催します。

日7/26(金)10時～15時 同館(五香西6の12の1) 災害対策車両や建設機械の操作体験、VRなどのDX体験、建設技術・災害体験など ※詳細は同館ホームページで 国土交通省関東技術事務所 contact@kense-te.jp



災害対策車両

広報「まつど」



千葉県お出かけ情報サイト「ぐるっと千葉」

お出かけ情報サイト「いこーよ」

★★★★☆ 6か月前

Googleマップの検索にかかってから、かなり気になっていた建設技術展示館。平日の休みが取れたのでさっそく(笑)

「見て、触れて、知る(学べる)体験型施設」ということでしたが、車両乗り込み等は団体見学の申し込みが必要だったチェックミス(泣)でも、VR体験はさせてもらったのでラッキーでした。

また、車両格納庫前では、リモート操作のバックホウを実際に動かしてもらい、動画撮影の許可ももらいました。私達一般人にはショベルカーなんですが、ショベルが運転手側に向いているものはバックホウ、と。一つ賢くなりましたね(笑)

展示館内の各コーナーは、かなり専門的な内容で、屋外の展示も実物ゆえの大迫力。個人的にはコンクリートの劣化状況が◎でした。長崎・軍艦島の30号棟を見に行った思い出がありありと(苦笑)

スタッフの方々の親切な対応に敬意を表しつつ、猛暑の折、ご自愛いただきたく。

Googleマップのクチコミより

## ・業界紙への投稿事例



DX+i-Construction  
第16期 建設技術展示館  
開催予定 SCHEDULE  
CPD/CPDS 認定予定  
第7回 出展技術発表会  
令和6年5月23日(木)～24日(金)  
第8回 出展技術発表会  
令和6年7月4日(木)～5日(金)  
第9回 出展技術発表会  
令和6年9月5日(木)～6日(金)  
第10回 出展技術発表会  
令和6年10月3日(木)～4日(金)

第10回 出展技術発表会  
「防災・減災、国土強靱化、インフラ長寿命化技術、インフラ分野のDX技術、インフラ分野の脱炭素化-GX技術」のテーマを中心に出展技術の発表をおこないます

TIME SCHEDULE  
令和6年 10月3日(木)～4日(金)  
10:00～15:30 (受付9:15～) 10:00～15:30 (受付9:15～)

会場  
関東建設事務所 建設技術情報センター  
〒260-8502 千葉県千葉市中央区新大塚1-1-1  
会場 国土交通省 関東地方整備局 関東建設事務所

CPD/CPDS 認定予定  
令和6年9月27日(金) 12:00まで 任意の会場

機関誌「ほんぷ」※1



建設マネジメント技術※2



首都圏から行く 個性派ミュージアム案内※3

## 建設技術展示館の概要と第16期の活動内容

### ・建設技術展示館HP

建設技術展示館HPではトップ画面に展示館紹介動画や出展技術発表会を掲載しているほか、バーチャル空間で展示館内や車両格納庫内を見学できる「バーチャル展示館」を開設し、出展技術や災害対策車両を分かりやすく紹介している。



バーチャル展示館の状況



建設技術展示館紹介



展示技術の紹介事例(技術情報や紹介動画)



建設技術展示館HP(トップ画面)



災害対策車両の紹介(右は紹介動画)

## 建設技術展示館の概要と第16期の活動内容

### ・外部イベントへの出展事例①

建設技術展2024関東(C-Xross2024)に出展し、インフラ分野のDXの取組についての紹介のほか、モバイル端末を使用した「Lidar体験」や災害を自分事化として考えるきっかけにもなる「地震VR体験」、あわせて、建設技術展示館リーフレットなどを配布しながら、建設技術展示館のPRを実施。

#### 【イベント概要】

日程：令和6年11月13日(水)・14日(木)

場所：サンシャインシティ展示ホールD

参加者数：15,100人(2日間)

実施内容：Lidar体験、VR体験、3次元データ操作体験、レーザースキャナ展示、説明タペストリー展示、展示館リーフレット、ペーパークラフト・KENKIカード配布等



展示ブース全景



来場者状況



VR体験



Lidar体験



3次元データ操作体験



I-Construction2.0の説明



建設技術展示館の紹介

## 建設技術展示館の概要と第16期の活動内容

### ・外部イベントへの出展事例②



展示ブース全景

第72回利根川水系連合・総合水防演習に出展し、対策本部車を2台連結させた内部スペースにおいて、VR体験や3次元データ操作体験を実施。車外のテントスペースでは、Lidar体験やレーザースキャナ展示等により、建設業で使われているDX技術の紹介、建設技術展示館のPRを実施。

#### 【イベント概要】

全体来場者：約7,000名

日 程：令和6年5月18日(土)

場 所：千葉県香取市佐原地先

実施内容：対策本部車(2台連結)の展示、VR体験、3次元データ操作体験、Lidar体験、レーザースキャナ展示、KENKIカード配布など



建設技術展示館の紹介



VR体験



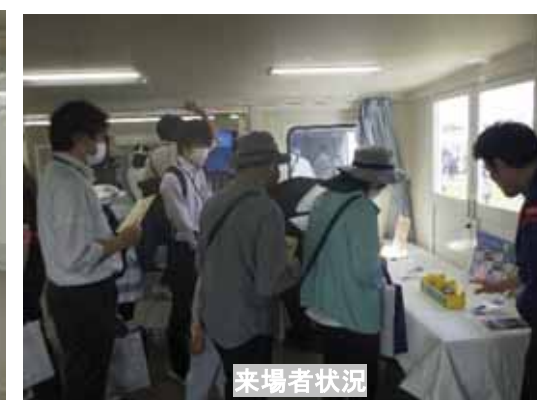
Lidar体験



来場者状況



3次元データ操作体験



来場者状況

### 5) 夏休み子供体験教室

建設技術や土木、防災等に興味や関心を持ってもらうことを目的に、出展者の協力の下、夏休み時期に小学生を対象にした体験イベントを開催している。

令和6年度は、セメント工作体験やアーチ橋づくり、建設機械の操作体験など多くの体験コーナーを用意し、1日の開催で800名を超える方に参加頂いている(令和6年7月26日開催)。



イベントチラシ



セメント工作体験



ミニバックホウ操作体験



アーチ橋づくり体験



キックボード&ミニセグウェイ体験



遠隔操縦式バックホウ操作体験

# 第17期 建設技術展示館

## 応募要領

### 1. 建設技術展示館の概要

建設技術展示館は、国民の暮らしを支える建設技術を幅広く情報発信するとともに、次世代を担う若い方にも建設技術への関心と理解を深めていただくことを目的に、平成11年度より関東技術事務所構内に開設した常設展示場です。

持続可能な社会の実現のため、国土交通事業・施策の効果・効率をより一層向上させ、国土交通技術が国内外において広く社会に貢献することを主眼においたテーマを設定し最新技術を中心に展示しています。

おかげさまで R6 年度は新規採用研修・社員教育研修や県・市等自治体研修、地域の民生委員、学生など約 8,000 人の方々にご来場いただいております。

### 2. 第17期 展示基本方針（第5期国土交通省技術基本計画、i-Construction 2.0 より）

少子高齢化・人口減少が進展する中、未来につながる変革と持続可能で豊かな社会の実現に向けて、担い手不足を補う労働力の確保や生産性の向上、賑わいの創出や関係人口の創出・拡大による地域の持続性確保が求められています。

#### **(1)防災・減災が主流となる社会の実現**

激甚化・頻発化する、または切迫する風水害・土砂災害・地震・津波・噴火・豪雪等の自然災害に対する強靱化対策により、国民が安心して生活を送ることができる社会を目指しています。

#### **(2)加速化するインフラの老朽化と持続可能なインフラメンテナンス**

我が国のインフラは、その多くが高度経済成長期以降に整備されており、今後、建設から 50 年以上経過する施設の割合は加速度的に増加する見込み。そのため、予防保全に基づくインフラメンテナンスへの本格転換を掲げています。あわせて、新技術等の導入促進によるインフラメンテナンスの高度化・効率化等を進め、インフラが持つ機能が将来にわたって適切に発揮できる持続可能なインフラメンテナンスの実現を目指しています。

#### **(3)インフラ分野のDX(デジタルトランスフォーメーション)・i-Construction 2.0**

次世代通信システム等の情報技術の利活用、新技術の社会実装を通じた社会資本整備分野のデジタル化・スマート化により、インフラや公共サービスを変革し、働き方改革・生産性向上を進めるとともに、インフラへの国民理解の促進や、安全・安心で豊かな生活の実現を目指しています。また、これまで進めてきた i-Construction の取組を深化し、更なる抜本的な建設現場の省人化対策を「i-Construction 2.0」として、「施工のオートメーション化」、「データ連携のオートメーション化」、「施工管理のオートメーション化」に取り組むことで、建設現場のオートメーション化の実現を目指しています。

#### (4)インフラ分野の脱炭素化・GX(グリーントランスフォーメーション)

2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指し、積極的に温暖化対策を行うことが産業構造や経済社会の変革(GX: グリーントランスフォーメーション)をもたらす、大きな経済成長につながるという発想の転換により、経済と環境の好循環をつくり出していくことが求められています。インフラ・運輸分野の脱炭素化等によりグリーン社会の実現を目指すとともに、インフラの機能・空間を多面的・複合的に利活用することにより、インフラのストック効果を最大化し、国民の生活の質の向上を目指しています。

### 3. 募集内容

#### 3.1 応募要件

(1)応募者は、企業・団体とします。

① 展示技術は、以下の3つのテーマのいずれかとします。

※太字は最近の動向に沿った技術

#### **A 防災・減災、国土強靱化、インフラ長寿命化技術**

- **耐震・耐水化技術、予防保全技術、インフラメンテナンス技術**
- **被災後の応急復旧・遠隔操縦による復旧技術**
- 施設の更新・更生・補修技術
- 監視・観測技術
- 点検・診断・モニタリング技術 など

#### **B インフラ分野のDX技術・i-Construction2.0技術**

- **施工・データ連携・施工管理のオートメーション化技術**
- **地理空間情報・デジタルツイン技術**
- IoTを活用した技術
- ドローンや衛星などの三次元測量データを活用した技術
- ICT施工技術、BIM/CIMなど三次元設計技術
- AR/VR/MRなどを活用した技術
- 無人化・ロボット技術
- ビックデータ等を活用したAIによる技術 など

#### **C インフラ分野の脱炭素化・GX技術**

- **建設材料のCO2削減技術、GX機械、水質浄化技術**
- **建設リサイクル促進技術、生物多様性技術**
- 再生可能エネルギーの有効利用技術
- 都市緑化技術 など

#### 3.2 展示場所

千葉県松戸市五香西6-12-1

国土交通省関東地方整備局関東技術事務所 建設技術展示館

#### 3.3 展示期間

リニューアルオープン(令和8(2026)年4月を予定)から約3年を予定



### 3.4 募集数

屋内展示 80技術程度を予定

### 3.5 展示スペース

建設技術展示館屋内展示場及び屋外展示スペース

(詳細については、応募説明書のとおり)

## 4. 管理運営費

### 4.1 管理運営費

管理運営費は、清掃費・電気代・ガス代(冷暖房)・展示館施設周辺除草費・来館者の保険・通信費(インターネットホームページ維持費含む)・広報費(リーフレット等)・雑費とします。

#### (1) 屋内展示場

①屋内展示場については一般ブース:1ブース(1小間)当たり21万円(7万円/年)を、大型ブース:1ブース(1小間)当たり90万円(30万円/年)を管理運営費として負担いただく予定です。(第17期展示期間 約3年間)

(負担額は選定後の管理運営委員会の議決により決定します。)

※負担額は、上記の金額を想定しておりますが、光熱費等の物価上昇により追加徴収することもあります。ご容赦ください。

②複数ブースを希望される出展者についてはブース数分負担いただきます。なお、大型ブースについては複数のブースを希望できません。

#### (2) 屋外展示場

①屋外展示場については1技術当たり3万円(1万円/年)をご負担いただきます。

②屋内展示と連動した屋外での技術展示の場合は屋内展示の管理運営費のみとします。

### 4.2 その他

その他の費用は下表のとおりとします。

表 費用の負担種別

区分	屋 内
1)基本設備(展示館負担)	一般ブース(2.0m×1.0m)
	●ブース設営 ●スポットライト(3灯) ●コンセント100V/5A(1ヶ所) (各ブース)
	大型ブース(3.0m×3.0m)
	●ブース設営 ●スポットライト(6灯) ●コンセント100V/5A(2ヶ所) (各ブース)
2)展示者負担	展示時
	●展示物の施工・運搬・セッティング費用 ●基本設備以外のブース設備費用 ●梱包材・展示物品・残材等の処分費用 ●銘板作成(技術名パラペット・出展番号)
	撤去時
	●展示物の撤去費用(原型復旧、清掃費含む) ●梱包材・残材等の処分費

その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>●展示物の補修費用</li> <li>●一時搬出の際の搬出費用及び再設置費用</li> <li>●会場設備・備品及び他者展示物を破損させた場合の弁償費</li> </ul>

## 5. 応募の留意点

### 5.1 応募者

応募者は、企業・団体とします。なお応募者が施工者及び共同開発者等で他に技術の権利者が存在する場合は、当該技術の権利者の同意・了承を得た上で応募してください。

### 5.2 ブースについて

(1) 展示テーマが同じ場合は、1ブースに複数技術の展示も可能とします。展示テーマが異なる技術の場合はそれぞれのテーマでご応募いただき別ブースにて展示していただきます。

(2) 展示スペースに2ブース以上を必要とする場合には、必要ブース数を応募して下さい。大型ブースについては複数ブースの応募はできません。

(管理運営費に関しては、21万円(1ブース)×必要ブース数となります。)

(3) 応募数やレイアウトの都合上、大型ブースを希望されても一般ブースになる場合があります。

### 5.3 応募不可の技術について

特許等の知的財産権に関して係争中の技術は、応募できません。また、展示中であっても係争が発生した場合は展示を中止していただく場合があります。

### 5.4 展示物の更新

展示テーマの範囲内で逐次展示物等のリバイスを行ってください。

### 5.5 展示の継続について

同一技術の場合は展示方法などを工夫し、今までとは異なる展示となるようにしてください。

### 5.6 展示物の一時搬出について

展示者の都合による一時搬出は短期間のみ可とします。搬出・再設置の費用については出展者にてご負担いただきます。

### 5.7 展示の中止について

展示者が展示物を管理できなくなる恐れがあると判断した場合は、展示を中止させていただきます。撤去は、展示者(又は、管財人)の責任、費用において実施していただきます。

### 5.8 その他

(1) 詳細の運用規則等につきましては、第17期建設技術展示館管理運営委員会設置時に定めることとします。

(2) 建設技術展示館にて実施するイベント等への参加、団体見学者への展示技術説明、DXパークへのコンテンツ等の無償提供など積極的な展示館運営への協力をお願いします。

例) 実施イベント: ・出展技術発表会(年6回予定)

・夏休み子供体験教室

・展示館来場者(団体見学者)への展示技術説明

(3) 展示館の積極的な広報をお願いします。より多くの方々にご来館いただけるようご協力をお願いします。

## 6. 応募内容の審査

### 6.1 審査

(1) 応募内容については、学識経験者等からなる「建設技術展示館審査委員会」において、総合的に審査し、展示技術を決定いたします。そのため、応募されても選定されない場合があります。応募書類は審査対象となるため、応募説明書に記入している内容に留意し、できるだけわかりやすく記入して下さい。

### 6.2 書類の修正

応募書類に記入漏れ、不明な点等があった場合は修正を求めることがあります。

### 6.3 審査項目

審査項目は下記のとおりとします。

テーマとの適合	展示技術のテーマと合致しているかを評価する。
展示方法の工夫	「見て・触れて・体験」して当該技術が容易に理解できる工夫について評価する。 当該技術が「自分たちの生活にどのように関わっているか」がわかる工夫について評価する。 目を惹くブース作りについて評価する。
展示館運営に対する積極性	コンテンツの無償提供や展示館を活用した独自イベント計画、展示館の積極的な広報などの取組を評価する。
国土交通施策に対する取組	ニーズとシーズのマッチングやICTアドバイザー制度など国土交通施策に積極的に取り組んでいる企業を評価する。

### 6.4 結果の通知

選考結果は、令和7年10月中旬に応募者に通知します。なお、選考内容に関するお問い合わせについては、お答えできません。ご了承ください。また、展示物の配置は展示内容等を考慮したうえで決定し、令和7年12月上旬迄に展示者に連絡いたします。

## 7. 応募締切

令和7年7月18日(金)まで

## 8. 応募方法

建設技術展示館(<https://www.kense-te.go.jp/>)内「展示技術募集ページ」よりご応募ください。

## 9. 問合せ先

国土交通省 関東地方整備局 関東技術事務所内 建設技術展示館 事務局  
〒270-2218 千葉県松戸市五香西 6-12-1  
担当:角田・國友・松岡  
(E-mail)[contact@kense-te.go.jp](mailto:contact@kense-te.go.jp)

## 10. 覚書の締結

展示にあたり、国土交通省関東技術事務所長と展示品、展示期間、展示物の保持及び管理運営等について定めた「覚書」を締結するとともに、建設技術展示館の全展示者で組織する管理運営委員会に加入していただきます。なお、共同による応募の場合の締結者は代表出展者（会社等）となります。

## 11. スケジュール(参考)

- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| (1)選考結果の通知     | 令和7年10月中旬(予定)          |
| (2)展示者説明会      | 令和7年11月初旬(予定)          |
| (3)展示物の搬入・設置期間 | 令和8年2月初旬～3月下旬          |
| (4)展示物の展示期間    | 令和8年4月から令和10年11月まで(予定) |

# 第17期 建設技術展示館

## 応募説明書

### 1. 展示スペース

第17期建設技術展示館のブースレイアウトについては、今までの画一的なレイアウトとは異なり大幅にレイアウトの変更を予定しております。検討中ではありますが、参考までにパース図を右に記します。

出展ブースは一般ブースと大型ブースとし、自由度を持たせたブースとします。展示方法については展示館コンセプトである「見て、触れて、体験」することができ、学生や一般の方々が興味を惹くと共に展示技術が自分たちの生活にどのように関わっているかを理解できる工夫をご提案ください。



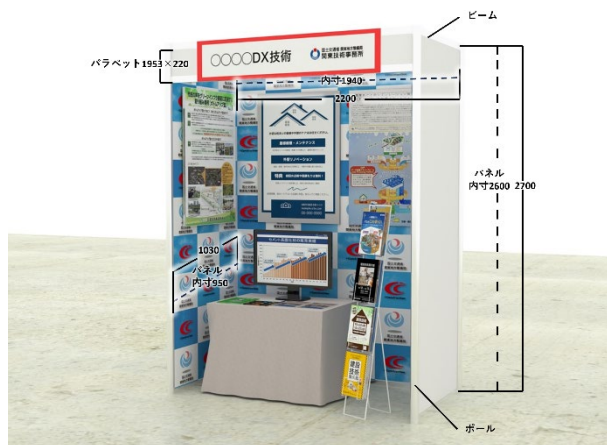
#### (1) 一般ブース

- 1ブース(小間)を最小スペースとし、同一テーマであれば1ブースで複数の技術応募も可とします。それぞれの技術の概要説明を明記すること。複数のブースを希望することもできます。上部から展示物等を吊す等、空間の利用も可とします。

※希望にそえない場合もあります。

- 1ブースあたりのサイズ:幅2.0m×奥行き1.0m

#### 2×1mブースイメージ



#### 2×1m 2ブースイメージ



展示ブース(イメージ図)

- パラペット(技術名)等のデザインは統一を図ります。パラペットは技術名称及び会社名のみとします。
- ブース内の展示品及び装飾について明記すること。レイアウト及び装飾については参考写真やポンチ絵でも可とします。また、ロゴマーク等を使用した装飾も可とします。商品名が必要な場合は装飾または説明資料パネル等にお願いします。
- 学生や一般の方々に当該技術が自分たちの生活にどのように関わっているか、省力化や環境対策、インフラの安全・安心など社会にどのように関わっているかを理解しやすいよう技術の展示を工夫すること。

- 既展示されている技術について応募する場合は展示方法等の工夫を検討し、レイアウトと共に現況との変更点等を明記すること。
- 展示館からは基本設備のみの提供とする。(パーティション、照明(スポットライト3灯)、電源(100V/5A コンセント))展示品・映像装置、机等の備品は展示者にて用意すること。

## (2)大型ブース

- 1ブース(小間)のみとし、同一テーマであれば複数の技術応募も可とします。それぞれの技術の概要説明を明記すること。上部から展示物等を吊す等、空間の利用も可能です。大型ブースは複数のブースを希望できません。  
※大型ブースは応募者数や全体レイアウトの都合上、一般ブースになる場合があります。
- 1ブースあたりのサイズ:幅3.0m×奥行3.0m

### 3×3mブースイメージ



展示ブース(イメージ図)

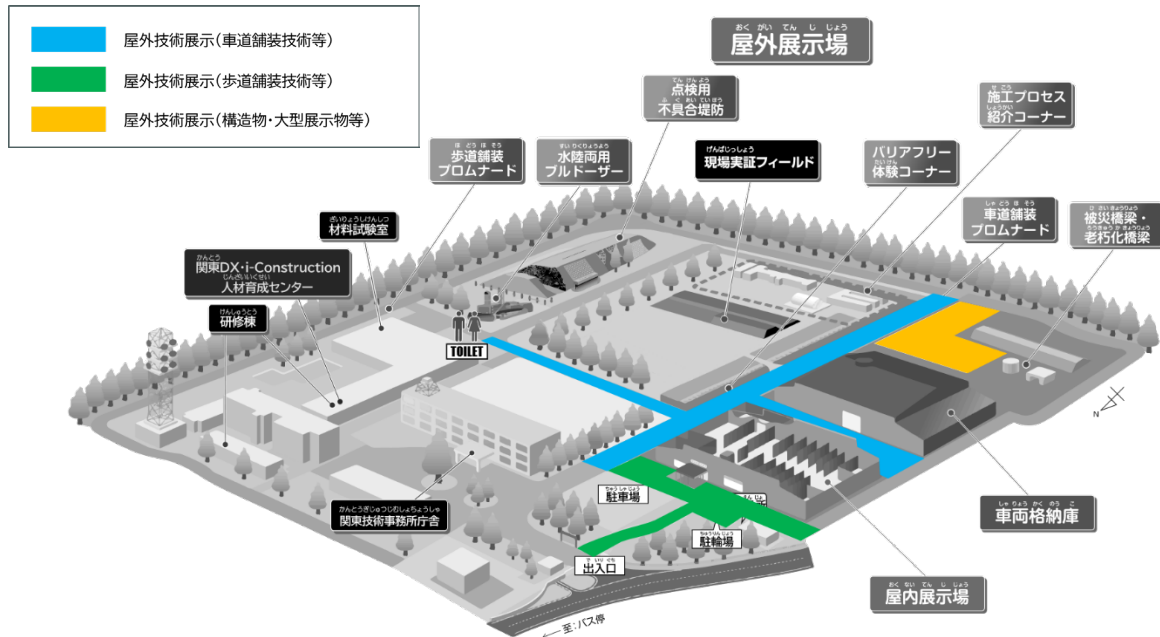
- 大型ブースはブースデザインに自由度をもたせたブース(参考:イメージ図)とします。ブース内には必ず展示テーマ及び技術名称を明記すること。技術名称、展示品を含めたブースレイアウト及び装飾を提案し明記すること。レイアウト及び装飾については参考写真やポンチ絵でも可とします。ロゴマーク等を使用した装飾も可とします。商品名が必要な場合は装飾または説明資料パネル等をお願いします。
- 学生や一般の方々に当該技術が自分たちの生活にどのように関わっているか、省力化や環境対策、インフラの安全・安心など社会にどのように関わっているかを理解しやすいよう技術の展示を工夫すること。
- 展示館からは基本設備のみの提供とする。(パーティション、照明(スポットライト6灯)、電源(100V/5A コンセント×2))展示品・映像装置、机等の備品は展示者にて用意すること。

## (3)屋外展示

- 屋外展示場での実物展示のほか、屋内展示ブースと連動した屋外での技術展示も可とします。
- 屋外展示は下記の図の位置を予定としています。展示希望位置及び範囲を明記すること。範囲については出展者の数により調整します。
- 技術展示による施工はすべて出展者の負担となります。
- 技術説明看板等について展示技術の近傍に設置することとし、設置位置等を明記すること。舗装ペイント、文字、社名ロゴ、展示技術などを道路部分に記載する場合も同様に明記すること。設置位置・大きさなどについては事務局との調整になる場合があります。

※希望にそえない場合もあります。

- 構造物、大型展示物の場合は展示物の大きさと設置位置・展示広さ、展示方法を明記すること。設置位置・展示広さなどについては事務局との調整になる場合があります。
- 仮設等が必要な場合は展示物及び展示方法と同様に明記すること。仮設物については展示者にて用意すること。



## 2. 建設技術展示館の積極的な広報などの取組

### (1) 出展技術発表会への参加

建設技術者の方々を主な対象に、公共工事に係る技術者の知識習得及び技術の普及を図ることを目的に建設技術展示館の出展技術について発表いただいております。

### (2) 夏休み子供体験教室への協力

未来を担う子供たちに「土木」や「建設技術」について関心を持ってもらうことを目的に、また、周辺地域との連携を深め、広く公共事業や建設業界へのご理解をいただくこと目的として実施しております。

### (3) 団体見学者への技術説明

建設技術の知識習得及び研鑽のため展示技術の説明を希望される団体見学者がご来館されます。1 技術あたり 30 分程度のご説明をお願いしています。依頼された場合は説明いただけるようご調整ください。

### (4) DX パークへのコンテンツ等の無償提供について

DX パークでは建設 DX を体験し、「土木」や「建設技術」について関心を持ってもらう、また DX 技術をご活用いただくきっかけとするべく、レーザースキャナやトータルステーション、VR や LiDAR などの体験を実施しています。VR 等のコンテンツや機材など無償提供、無償貸与についてご協力ください。

### (5) 独自イベントの開催

展示技術の紹介や建設業の魅力発信など、建設技術展示館を活用した独自イベントの積極的な企画・開催をお願いします。

### (6) 集客につながる展示館の積極的な広報について

より多くの方々に建設技術を知っていただくため建設技術展示館の積極的な広報にご協力ください。また、研修等にご活用いただけるよう関係部署、関連会社等に周知していただけるようお願いいたします。